

RX-178 'GUNDAM' Mk-II

A.E.U.G. PROTOTYPE GENERAL PURPOSE MOBILE SUIT

© 創通エージェンシー・サンライズ



HG

保存版

■ 1/144 RX-178「ガンダムマークII」HG

Designer, Kunio Ohgawara. He has made another design newly for us. And BANDAI has just embodied his draft in plastic models. We did every technique we could do. Now his arts are coming true and moving...full color mold, M.S. joint, snap kit, ...when you open the box, you know another great GUNDAM from BANDAI.

**BAN
DAI**

BANDAI 1990 MADE IN JAPAN



▲サイド7/1パンチ、グリーン・ノア1内で慣熟飛行テストを繰り返すRX-178-3号機。見ての通りその機体色は黒(ダークブルー)に統一されたティターンズ・カラーであり、旧大戦時の『

RX-78"ガンダム"とは全く印象を異にする"悪"のイメージが強烈。左腰部に装着された計測機に注意。尚、テストのチェイサー役を務めているのは、同隊所属のFF-6"ティンコッド"である。

「RX-78の後継機は、地球至上

(『MS開発年鑑U.C.0087年編』リバーアングル社刊〜RX-178解

「いよいよ我々の手による、我々の為の『ガンダム』がロールアウトする。地球至上主義を銘旗とする我々『ティターンズ』には、スペースノイドである技術者陣の血が混じる事の無い純血の地球連邦軍製『ガンダム』こそが、当初から与えられるべきMSの姿であった筈なのだ。」
(グリプスでのマトッシュ大尉のスピーチ冒頭より)

U.C.(宇宙世紀)0083年、活性化する旧ジオン公國軍の残党狩りを目的とした地球連邦軍治安部隊が結成され、『ティターンズ』を命名した。このティターンズ結成により、一年戦争終結以後凍結状態であったMS開発は、再び活性化の様相を呈した。その『手段』が『形』として世に姿

を現わしたのが、RX-178『ガンダムMk.II』であった。

■ティターンズの歪んだ思想

U.C.0085年よりティターンズは、サイド7にあるグリーン・ノア1、同2(グリプス)にてガンダムMk.IIの開発に着手している。一年戦争後に連邦軍が接収した旧ジオン公國軍のMS開発技術は、まだまだ研究の余地を多分に有する物であったが、このプロジェクトは旧ジオン公國軍系の技術者は全て外され、連邦軍はえ抜きの技術者陣のみで構成されたチームで進化した。当然これは、彼らティターンズの反スペースノイド意識から来た物である。その為、細部においては当時の一般機に劣る設計箇所も無いとは言

主義の基にロールアウトした。」

説より抜粋転載)

い切れず、時代と思想の板挟みにあった中途半端な機体、という見解があるのは否めないかもしれない。

基本設計は、一年戦争時連邦軍型MS中最優秀設計とされたRX-78を踏襲し、又、フォルムをも含めてRX-78のアップ・デイト版として計画された。

■MS開発の時代背景

この当時、MS開発はグラナダ、ジャブローといった兵器開発能力のある軍事基地で競作の形を取った。それを軍兵器開発統括局において、承認/却下するという組織が確立されていた。加えて、MSの形式番号の複雑化を避ける為に、

試作機を RX-■ ■ 1
量産機を RMS-■ ■ 1

と、新たに統一された。数字は、上2ケタが開発基地、下1ケタが開発順番を示す。開発基地のコードは以下の通り、

- 10.....グラナダ
- 11.....ルナ・ツー
- 12.....コンバイトウ(ソロモン)
- 13.....旧ア・バオア・クー
- 14.....ベズン
- 15.....ニューギニア
- 16.....キリマンジャロ
- 17.....グリプス
- 18.....ジャブロー
- 19.....ジャブロー

これを使用してガンダムMk.IIの形式番号RX-178を解読するなら、RX(連邦軍試作機)である、(P.5へ続く)

SINCE U.C.0085, TITANES PROTO TYPE MOBILE SUIT **RX-178 "OPTION PARTS"**

■オプション・パーツ対応表

①ロングライフル (Gディフェンサー・
 付属パーツ)

②バルカン・ポッド

③Gディフェンサー本体

④Gディフェンサー・コクピットポッド

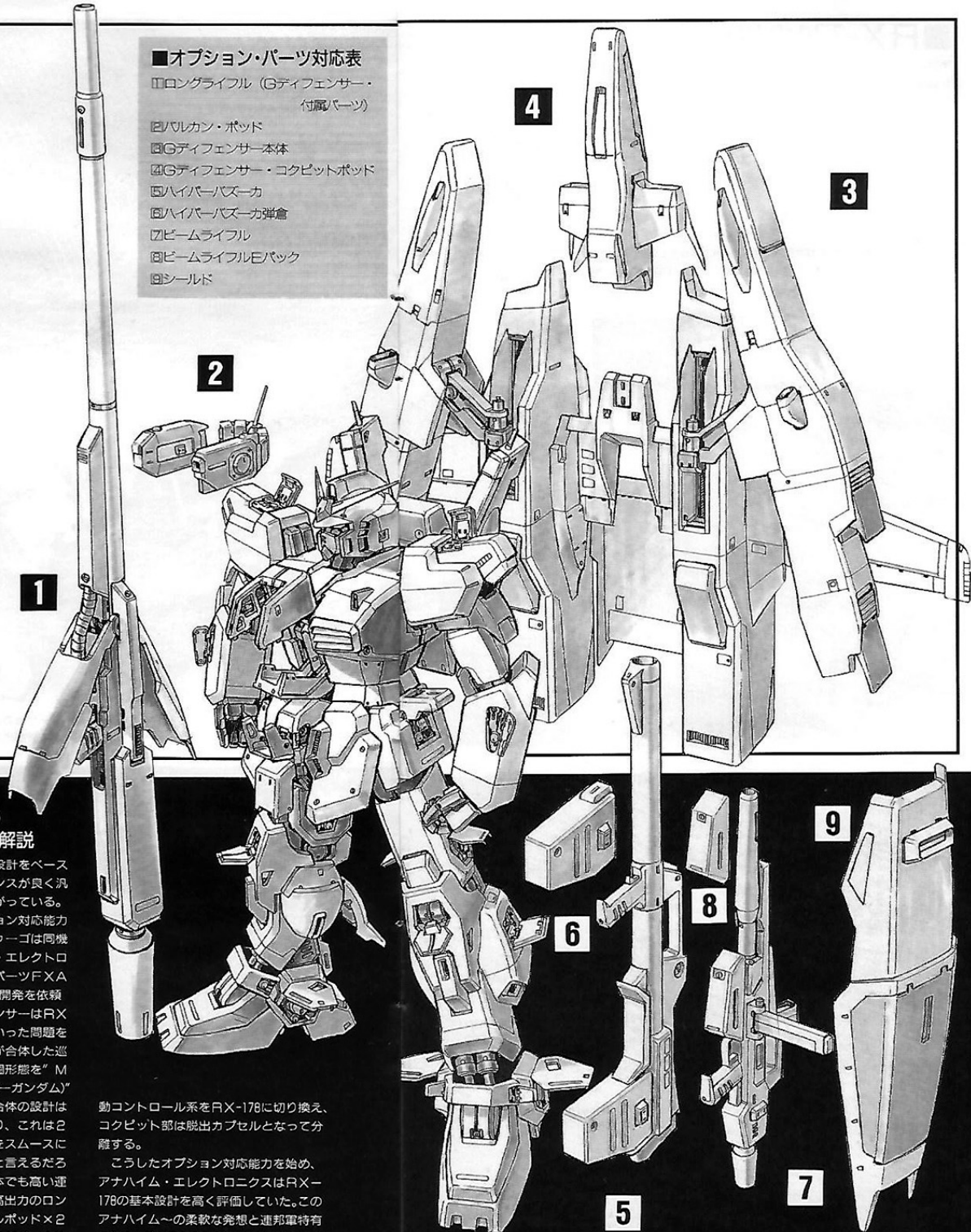
⑤ハイパーバズーカ

⑥ハイパーバズーカ弾倉

⑦ビームライフル

⑧ビームライフルE/バック

⑨シールド



■ガンダムMk.IIの オプション対応能力解説

RX-178は、RX-78の設計をベースにした為、極めて機体バランスが良く汎用性の高いMSとして仕上がっている。それは言い換えればオプション対応能力の優秀さを示しており、エウゴは同機を奪取した後、アナハイム・エレクトロニクスにRX-178専用強化パーツFXA-05D“Gディフェンサー”の開発を依頼している。このGディフェンサーはRX-178の防衛力、航続距離といった問題を解決する為の機体で、双方が合体した巡航形態を“Gフライヤー”戦闘形態を“Mk.IIディフェンサー(スーパーガンダム)”とそれぞれ呼んだ。変形・合体の設計はシンプルなものに徹しており、これは2つの異なるメーカーの機体をスムーズに運用する事への当然の配慮と言えるだろう。Gディフェンサーは単体でも高い運動性を持つ空間戦闘機で、高出力のロングライフルや14連装ミサイルポッド×2を装備している。乗員は1名だが、合体後スーパーガンダム形態を取る際には駆

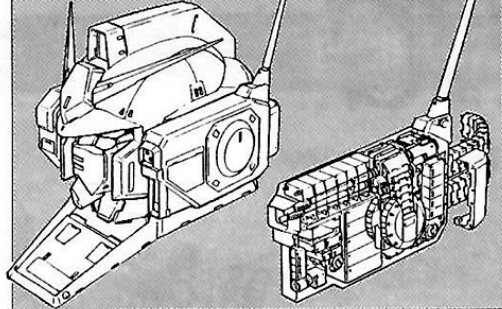
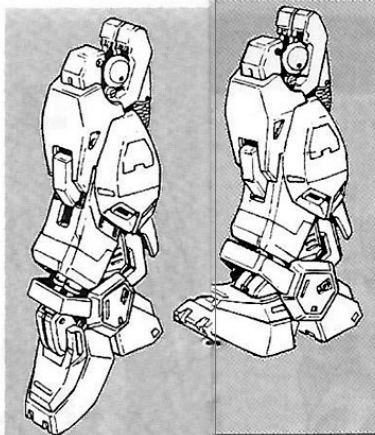
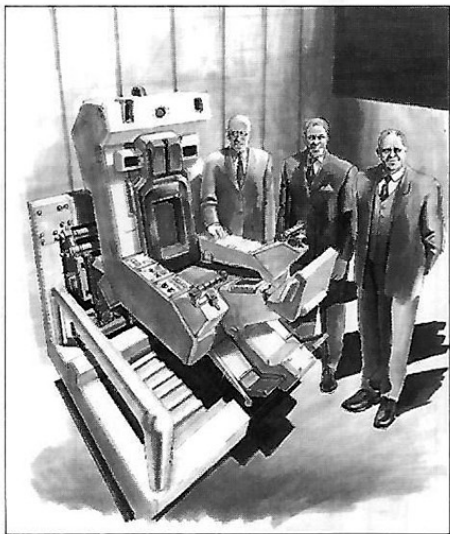
動コントロール系をRX-178に切り換え、コクピット部は脱出カプセルとなって分離する。

こうしたオプション対応能力を始め、アナハイム・エレクトロニクスはRX-178の基本設計を高く評価していた。このアナハイムへの柔軟な発想と連邦軍特有の“ガンダム信仰”の合体が、アナハイム・ガンダム誕生への布石となった。

■RX-178の機体特色

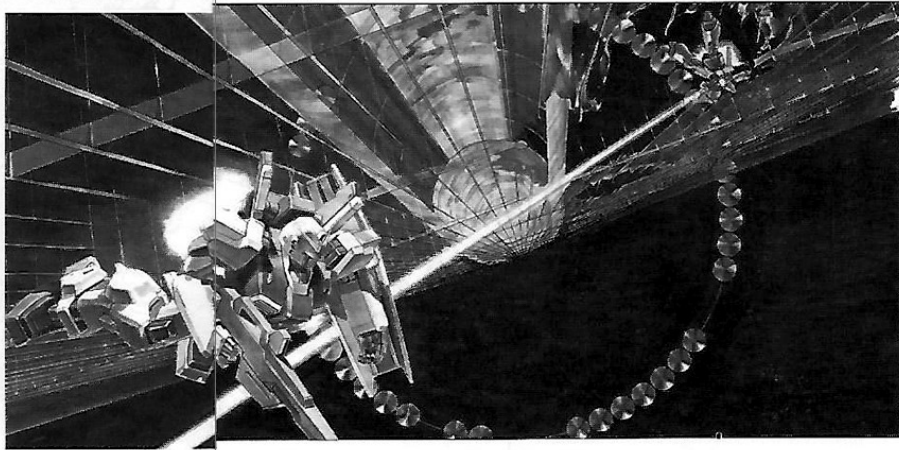
▼リニアシート・システムは、U.C.0079年にアナハイム・エレクトロニクスの手により完成している。翌年には360°全天周囲モニターとした新型リニアシートが完成し、RX-178が同新型～初の標準装備機となった。写真は、U.C.0079年11月18日に行なわれた新型リニアシート・システムのプレス向け発表会見でのものである。写真左端が、アナハイム・エレクトロニクス社長のコウエル・J・ガバナン。尚、この会見では全天周囲モニターはスチール発表のみであり、加えてリニアシートはモックアップであった。

▲(右下)サイド1の30パンチ宙域にて、ルナ・ツー防衛隊所属のRMS-117"ガルバルディβ"と交戦中のRX-178。同サイドは、ティターンズが毒ガスを使用した故放棄中になっているいわくつきのコロニーである。一見してわかる様に、RX-178はRX-78を踏襲したトリコロール・カラーにリペイントされている。



▲頭部内蔵型からオプション・ポッド方式になったバルカン。右耳面に装着されるのはマガジン兼バランサーで、銃口は左耳面に2門ある。

◀内骨格方式であるムーバブルフレームは、その動きに対し外装甲が干渉を減らす可動をし、常に関節駆動系の露出面積を最小限に留める。図は足首可動だが、(すね)部外装がシリンダーに運動しているのに注意。



17(グリプス)で8番目に開発されたMS、という事になる。

■"第2世代MS"の誕生

ガンダムMk IIを語る上で最も重要な事は、同機以降のMSが"第2世代MS"として区別される事であろう。

第2世代MSの条件は、①リニアシート&イジェクション・ポッド^{※1}・システムの装備②ムーバブルフレームの導入の2点である。リニアシート・システムは、脱出装置を兼ね備えた全天周囲モニターを実現し、又、パイロットへの対応性能等も格段に改善された為、飛躍的にMSの操縦性が向上した。ムーバブルフレームは、MSの機体構造そのものを一変させた新概念である。"人間"の動きをトレース出来る程のフレキシビリティを持つこの内骨格システムは、故障発生率も低く信頼性の高い完成されたシステムとして以後のMSに続々と導入され、後のTMS(可変型モビルスーツ)誕生の土壌と

なった。

■ガンダムMk IIの数奇な運命

先に記した様にガンダムMk IIの基本コンセプトは、RX-78を踏襲/発展させた形となっている。元のRX-78との最大の相違点は、コア・ブロック・システムの廃止であろう。高性能だが高級高価化最大のネックであったコア・ブロック・システムに対し、リニアシート&イジェクション・ポッド・システムがこの立場を取って代った。

外観面では頭部バルカンのオプション化と、バックパック^{※4}の独立化が大きな変化として挙げられる。特にバックパックは、4発のメイン・スラスターを有し、主機(ジェネレーター)の大型増強化と相まって高い機動性を可能としている。又、機体各所には姿勢制御バーニアが数多く設けられ、一年戦争当時のMSとは比較にならない運動性を誇る。

オプションとしては、エネルギーOA

P応用のEバック方式を導入したビームライフルを始め、ハイパーバズーカ、スライド収縮機構を有したシールドなどが挙げられる。

特筆すべき事は、RX-78の機体バランスの優秀さが受け継がれた事により、汎用性の高い機種として完成されていた事であろう。しかし、同機が3機の試作のみに留まり量産化が中止された原因はフレーム材質そのものの問題等の未解決要素によるものであり、第2世代MS自体が成熟の域に達していなかった、という結論になるだろう。

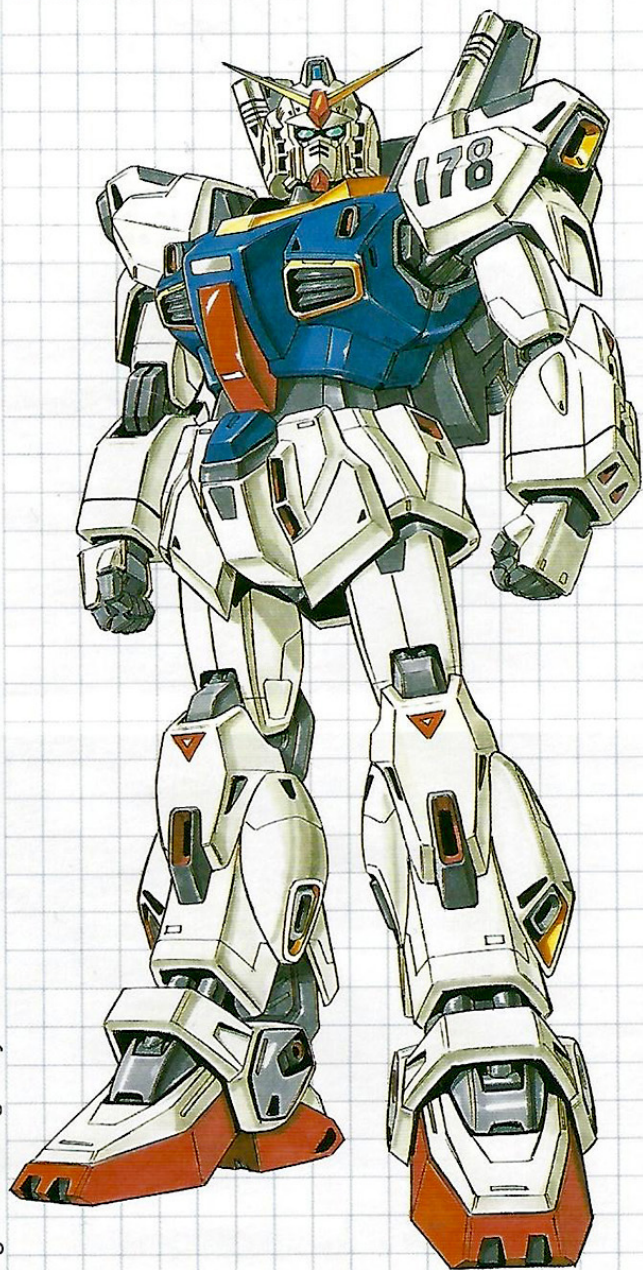
試作3機のガンダムMk IIは、その後その全てが反地球連邦弾圧政策組織"エウゴ"に略奪されている。その内1機が突戦投入され、皮肉な事にモグリブス戦争を通して期待以上の戦果を上げた。それはまた、かの名機RX-78"初代"ガンダムがU.C.0087年当時においても通用しうる設計であった事の証明でもあった。

■ガンダム世界用語の基礎知識

- ※1……リニアシートと360°全天周囲モニターが組み合わされ、これ全体を球状の脱出ポッドとし、非常時には射出する方式。第1世代MSには見られなかった積極的な脱出装置であり、既存のMSも数多く換装されている。
- ※2……第2世代MSで確立されたムーバブルフレームの柔軟性を、MS自体の変形に応用した第3世代MSの事。ムーバブルフレームによる変形の他、分離合体が可能なMSへと発展していく事となる。
- ※3……MSが接近防衛用に、また宇宙戦闘機などが固定武装として装備している機関銃の総称。発射速度は500~2000発/分程度。口径は60mmの物がポピュラーであり、機関部は単結晶鋼で作られている。20世紀後半の航空機関銃の傑作であったM61バルカンの名を襲名している為、混同されがちだが別の物である。
- ※4……MSの背部にマウントするユニットの総称。一年戦争時には主にランドセルと呼ばれた。様々な形式の物が存在するが、大同小異メイン・スラスターやビームサーベル等のオプションで構成される。

●この設定イラストは、メカ・デザイナーの大河原邦男氏がHGモデル用に新たに描き起したものです。

FRONT VIEW



頭頂高：18.5m

本体重量：33.4 t

全備重量：54.1 t

ジェネレーター出力：1,930kW

スラスター総出力：81,200kg

センサー有効半径：11,300m

装甲材質：チタン合金セラミック複合材

武装：ビームライフル

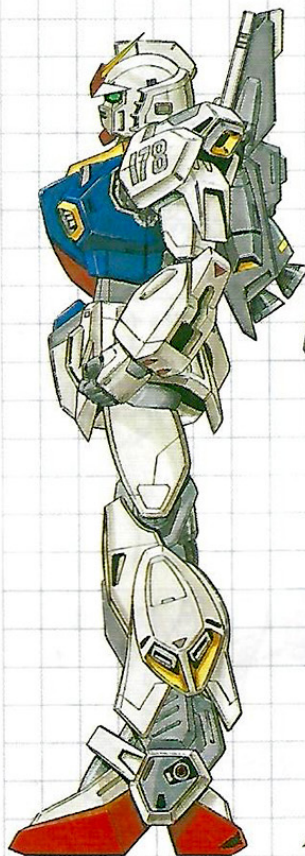
バルカンポッド・

システム

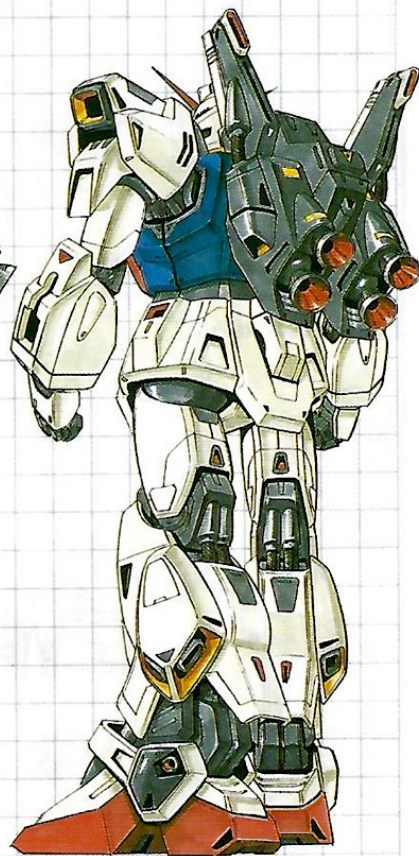
ビームサーベル×2

ハイパーバズーカ

SIDE VIEW



REAR VIEW

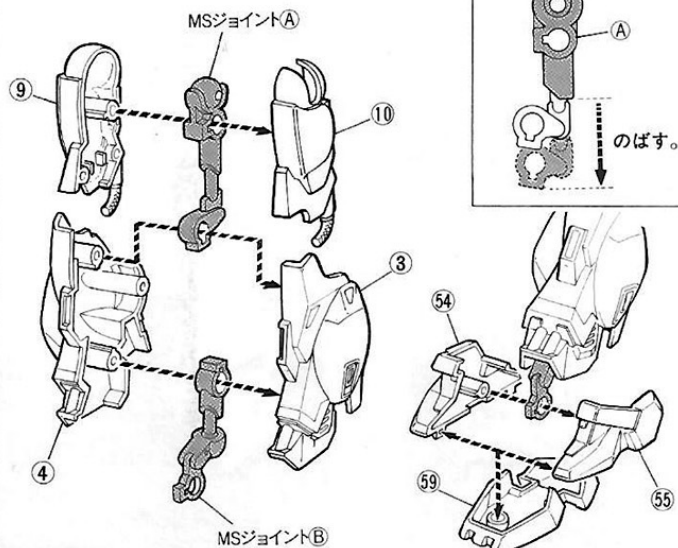


組み立てる時の注意

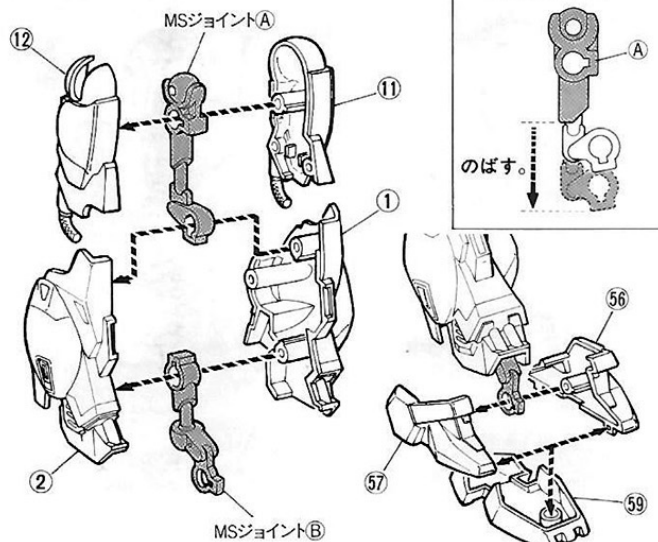
- この商品は、接着剤を使わずに組み立てられるスナップフィットモデルです。
- 組み立てる前に説明図をよく読みましょう。
- 部品は、番号をたしかめ、ニッパーなどできれいに切りとりましょう。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。

■MSジョイントは、組み立てる前に関節の曲げのばしをして下さい。

1 《右脚の組み立て》



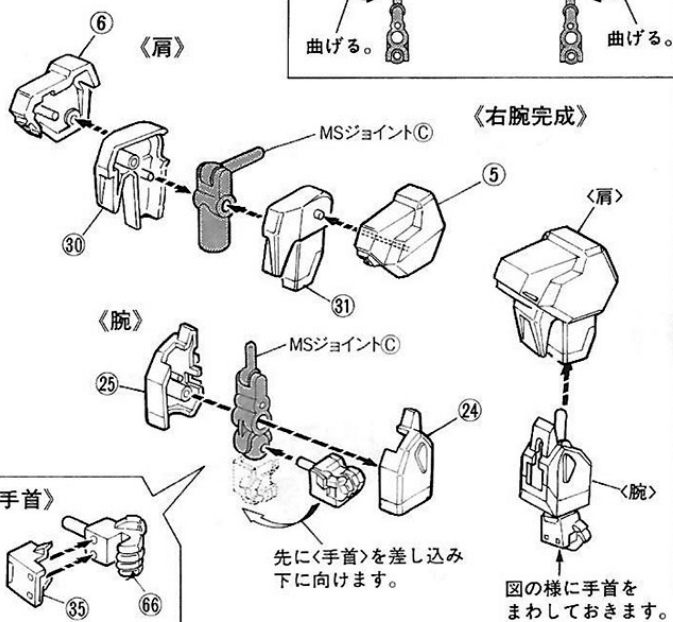
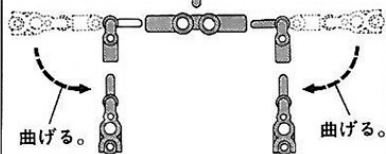
2 《左脚の組み立て》



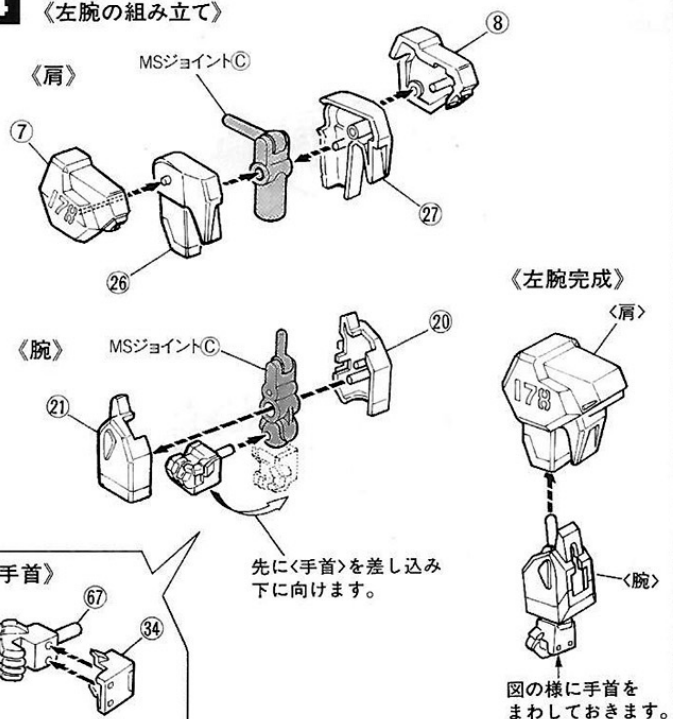
3 《右腕の組み立て》

※右の図の様にジョイントCの関節を取りはずします。

MSジョイントC

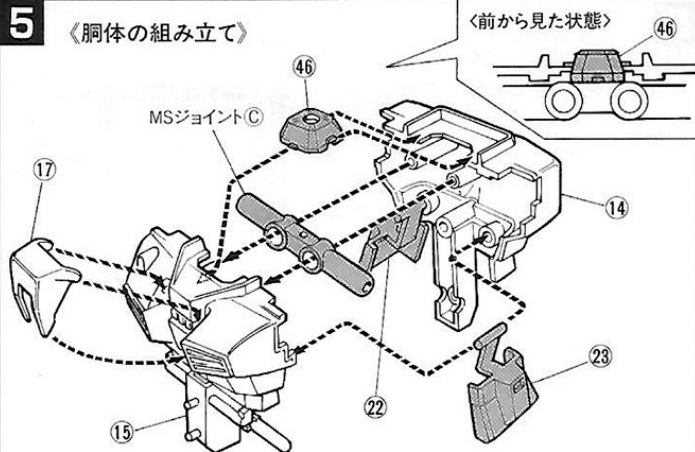


4 《左腕の組み立て》



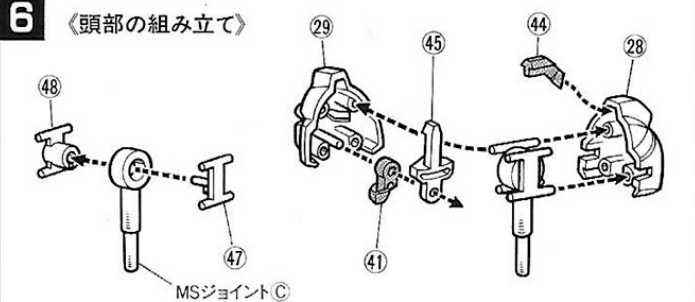
5

《胴体の組み立て》



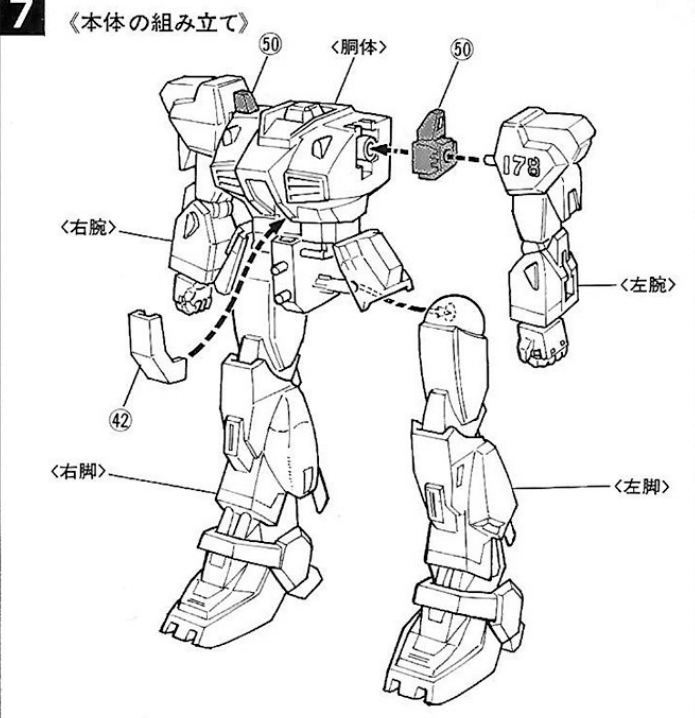
6

《頭部の組み立て》



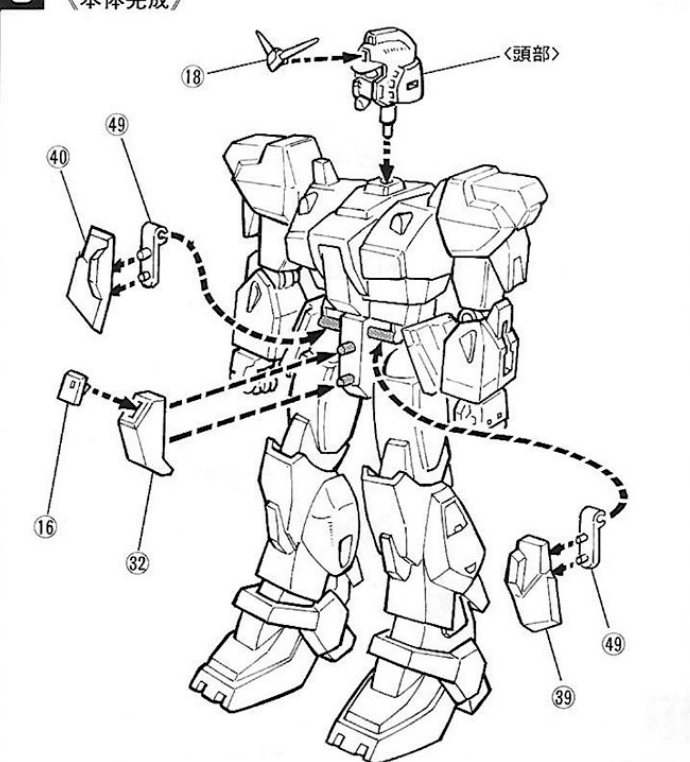
7

《本体の組み立て》



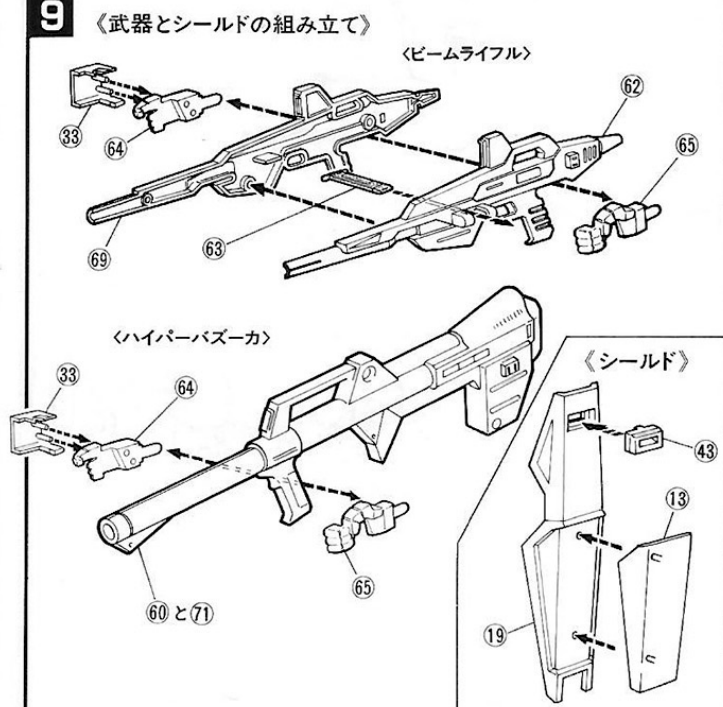
8

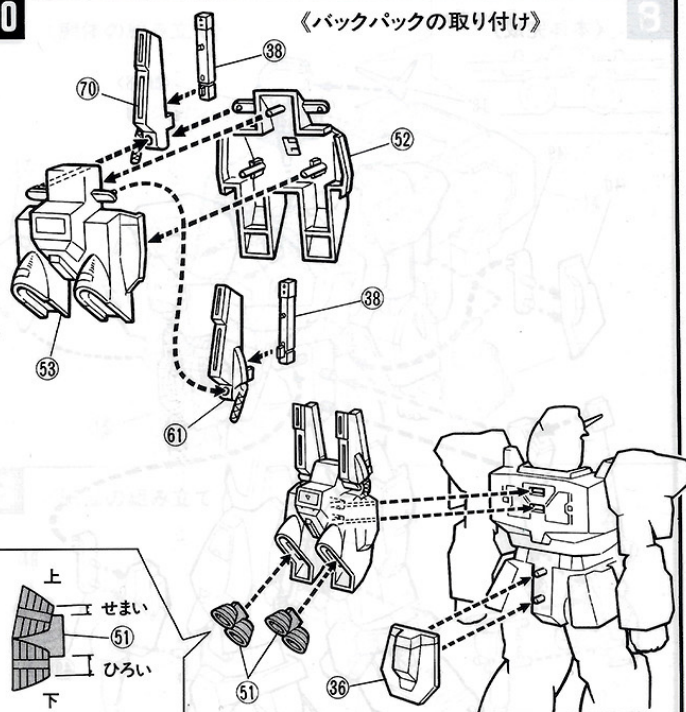
《本体完成》



9

《武器とシールドの組み立て》



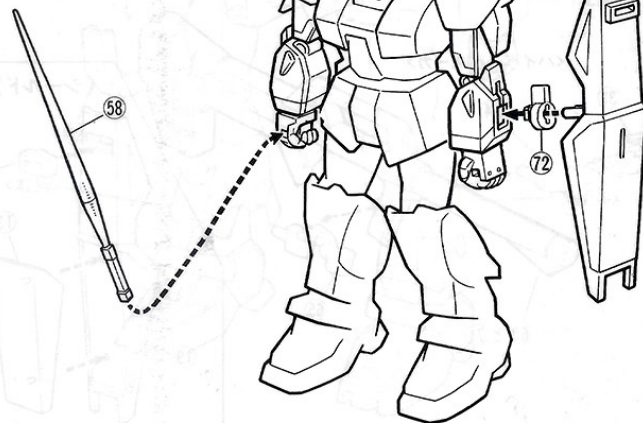


●武器を持たせる時は、どれかを選んで取り付けます。

《ハイパーバズーカ》

《ビームライフル》

《シールド》

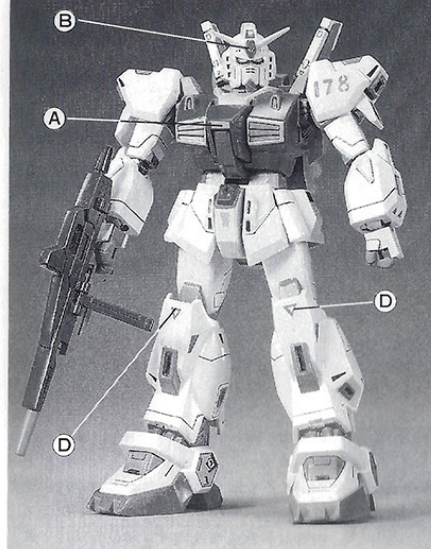


シール&ペインティング

■君のガンダムMK-IIが少しの塗装でリアルに仕上がります。(パッケージの写真を参考にして下さい。)

関節部は、ミディアムブルー+赤(少量)で塗ります。
目のフチ：黒
胸のエアダクトの内側：ニュートラルグレー
細部：黒でしめします。

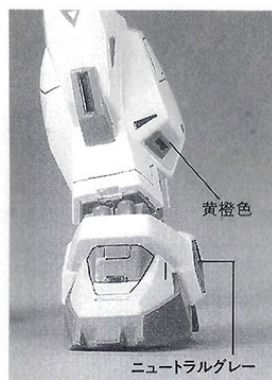
※(A)～(F)は、シールです。



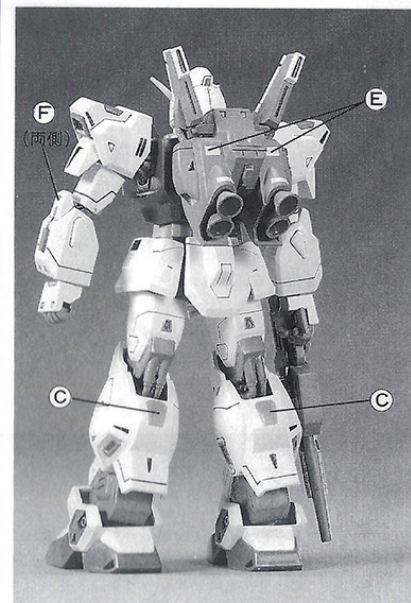
メインバーニア内側：モンザレッド



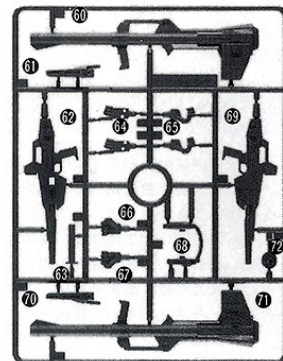
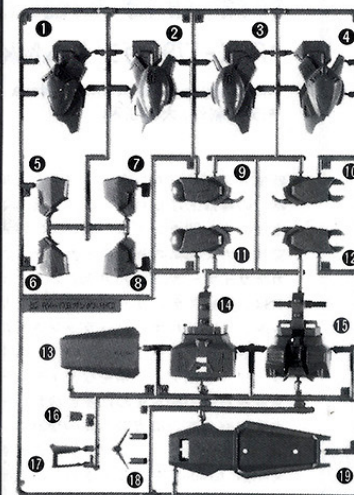
脚部スラスター：黄橙色



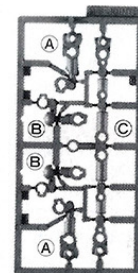
ニュートラルグレー



パーツリスト



《MSジョイント2》



●シール……1

★この製品は、多色・異材射出成形機により生産されたものです。(特許出願中)

部品をこわしたり、なくした人には実費にて部品をお付けします。「部品注文カード」に必要な部品の番号・数量をはっきり書いて切り取り、部品代金(部品代+当社からの郵送料)を郵便で持参(料金の安い定額小為替も可)で右記の当社お客様相談センターまでお申し込みください。部品代は、右記の表のとおりです。(郵送料は130円です)郵便で持参は、この部品代金の他に、為替料金が加わりますのでよくわしくはお近くの郵便局でおたずねください。

部品数が多くて、郵送料130円をこえる時は不足分を請求させていただきます。130円以下の時には、残額をお返しします。お送りする部品の形状・数量により郵送料が変わります。もし部品の不良がございましたら、その部品を切り取り、その部品の商品名を書いて当社までお送りください。良品と交換させていただきます。

部品・番号	部品代	郵送料
⑬・⑭・⑮	60円	130円
その他の部品	40円	

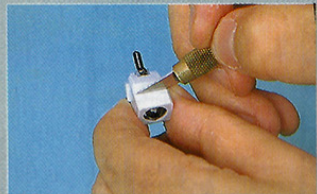
■申し込み先
静岡県清水市西久保305 丁424
株式会社静岡工場
お客様相談センター・部品係
TEL 0543-65-5315

部品注文カード 90/7-1000
HG 1/144 RX-178ガンダムMK-II
必要部品番号・数量を記入
●部品の注文は「郵便で替」(定額小為替でも可)でお申し込みください。

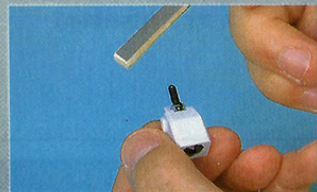
やっぱり ガンダムが好き!!

■継ぎ目の消し方編

HGシリーズは、組立完成度と、自由なアクションと、更に精密なディテールをめざしたキットです。そのため接着剤は、一切使用せずに完成し、自由な動きを楽しめます。しかし部品の継ぎ目(線)まで消すことは、出来ません。ですから今回は、みなさんから一番質問の多かった、継ぎ目の消し方について説明しましょう。まず、貼り合わせるパーツの接着面(両側)に接着剤を塗ります。一回目はすぐに乾くので、二度塗ります。接着したパーツは(完全に乾くまで)できれば、2~3日乾燥させて下さい。接着剤が乾いたら、いよいよ継ぎ目を消します。一番



最初は、カッターやデザインナイフの刃を垂直に立てて、はみ出した接着剤を削り落としていきます。それでも継ぎ目が消えない時には、隙間に瞬間接着剤を流し込みます。続いてペーパーに付けていきますが、指で直接パーツに紙ヤスリを当てるのは、なるべく避けてください。パーツの角がなくなったり、細かい所が削れなかったりします。できれば割



りばし等に紙ヤスリを付けたりして、ヤスリがけを行ってください。最初に使う紙ヤスリは400番ぐらいからが◎。継ぎ目が消えたら600~800番ぐらいで表面をしあげて下さい。紙ヤスリは荒い物から順番にかけてゆきましょう。

RX-178 GUNDAM MK-II

“RX-178「ガンダムMK-II」HG誕生”

Modeling by Masakazu Ohwa
モデル制作/大輪正和

新生ガンブラ(ガンダムのプラモデルの略)の幕は上げられた。こけら落としは、主役のRX-78ガンダム。続いて二弾目は、変形メカで人気の高いZ・ガンダム。メカデザイナー大河原邦男氏のメーキャップは、初めてデビューした当時のデザインを、それぞれオーバーラップさせた上で、さらに磨きをかけたもので、スタイリッシュなボディと精密なディテール、又成形技術の粋を集めた多色成形パーツや完成度の高い接着剤不要の設計コンセプトは多くのガンダムファンに感銘を与えHigh Gradeと呼ぶにふさわしいシリーズの誕生であった。

続いて、HG(High Grade)シリーズの第3弾目にデビューするのがガンダムMK-II



型式番号RX-178ガンダムMK-IIは、Zガンダムのストーリーの中でも、重要な役割を果たし、ボディデザインについても、先のガンダムの良点を継いでおり、ポテンシャルの高さにおいても、この機体のファンは多い。それ故に、HGのコンセプトに基づいた新しい設定と、設計が急務となった。当時デザインアップされた時で、ほぼ完成に近かったものを更にディ

▶HGの第三弾、ガンダムMK-IIのプロポーション。製作は、大輪正和氏により、リアルに再現。カラーリングは前回の設定仕様で塗ってある。



よっぽど難しい。だから細かい彫刻の他に、カラーリングも少し追加してみた……」と苦心談を話された。その苦勞の甲斐あって、素晴らしい仕上がり。プラス特殊な多色成形技術で、塗装をほぼ必要としないカラーリングパーツと、MSジョイントによる各関節の自由な動きを可能にした事で、また新しいHGガンブラ作品がひとつ追加されたのだ。一機また一機着実に新生ガンダムが動き始めている。

◀排気ノズルやバーニアに汚し塗装を入れて、更に精密度をましている。

▶頭部自由可動。塗装で工夫すれば更に迫力がアップする。

▶HGガンダムMK-IIは、1/144スケールのGディフェンサーとの組合せによってスーパーガンダムになります。

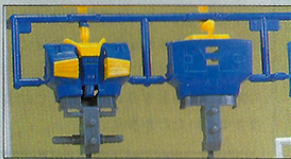
テールアップし、見る者に新しさ、たくみさを訴えるには並大抵の苦勞ではなかった。メカデザイナーの大河原邦男氏も、「なまじ前回の設定が、完璧に近いほどいいだけに、新たに描き起こすものより、



※1/144 Gディフェンサーは別にお買い求めください。



当社の誇る多色成形技術により、極限にちかいたところまで各パーツを色分けしました。この技術により、組み立てるだけで、ほぼRX-178のイメージカラーのように仕上がります。



MSジョイントII

このジョイントは、MSジョイントの改良発展型です。多色成形機で性質の違う樹脂を使用し、腕・肩・脚・腰の各関節がボールジョイントや二重関節構造になって組立て済み成形。又、手首もボールジョイントになっていますので、いろいろなアクションがたのしめます。

